

# 渡島の交通

## 港湾

渡島地域には、重要港湾として函館港、地方港湾として松前港、樞法華港、森港があり、このうち函館港は道南の物流拠点としてのほか、青森港、大間港とフェリー航路で結ばれ、本州と北海道を結ぶ交通運輸の拠点機能を果たしています。

平成17年5月には函館港に外資コンテナ定期航路(韓国・中国航路)が開設され、これまでに取扱いのなかったコンテナ貨物の輸出入が行われています。(現在は外資コンテナ航路は休止中です。)

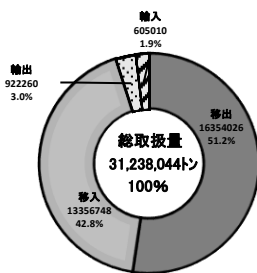
3つの地方港湾は地域生産物等の移出入や地域開発の拠点として重要な役割を担っています。

また、函館港はクルーズ船の寄港地としても人気が高く、平成29年12月に若松埠頭にクルーズ専用岸壁が着工され、令和5年度より本格供用が開始されております。



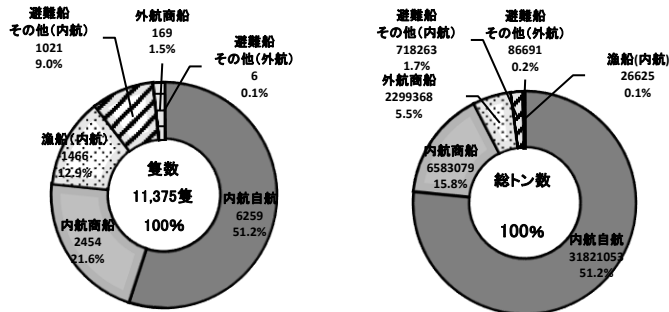
函館港

【取扱貨物】



|               |             |
|---------------|-------------|
| 函館港取扱貨物量(トン)  | 31,238,044  |
| 全道港湾取扱貨物量(トン) | 186,685,241 |
| 割合            | 16.7%       |

【入港船舶構成】



資料：函館市「函館港統計年報」(令和2年実績)

国土交通省北海道開発局「令和2年度内港湾取扱貨物量の実績」

## 空港

国内路線は、道内3路線・道外3路線が就航し、国内幹線空港として重要な役割を果たしています。一方、国際定期路線は、台北(桃園)線で2社が就航していますが、令和4年3月現在、新型コロナウイルスの影響により運休しています。

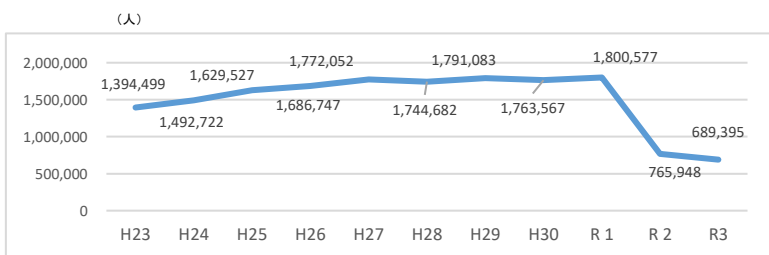
### ●函館空港利用状況

令和3年の利用状況は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて大きく落ち込みました。

国際線は、3月以降運休していることから利用者がゼロとなり、前年から皆減となっています。国内線も、年間を通して利用者が減少し、前年から7%の減少となっており、全体で10%の減少となっています。

※令和2年1月より、北海道エアポート株式会社による道内7空港の空港ビル運営が開始された後、順次滑走路等の運営が移行され、令和3年3月、函館空港を含む道内7空港全てで「上下一体運営」への移行が完了しました。

### ●空港乗降客数



資料：暦年別空港管理状況調査(国土交通省)

### ●函館空港乗降客数の推移(人)

| 年   | 国際線     | 国内線       | 合計        |
|-----|---------|-----------|-----------|
| H29 | 197,268 | 1,593,815 | 1,791,083 |
| H30 | 181,053 | 1,582,657 | 1,763,710 |
| R1  | 167,880 | 1,632,697 | 1,800,577 |
| R2  | 26,409  | 739,539   | 765,948   |
| R3  | 0       | 689,395   | 689,395   |

### ●道内外等の航空路線(令和4年3月現在)

|    |                                       |
|----|---------------------------------------|
| 道内 | 函館～丘珠(JAL)※注1                         |
|    | 函館～新千歳(ANA)                           |
|    | 函館～奥尻(JAL)※注1                         |
| 道外 | 函館～羽田(JAL・ANA・ADO)                    |
|    | 函館～中部(ANA・ADO)                        |
| 国外 | 函館～伊丹(JAL・ANA)                        |
|    | 函館～台北(桃園)※注2<br>(EVA/ANA/ANZ共同運航・TTW) |

#### 【航空会社】

日本航空(JAL)  
全日空空輸(ANA)  
エア・ドゥ(ADO)  
北海道エアシステム(HAC)  
エバー航空(EVA)  
ニュージーランド航空(ANZ)  
タイガーエア台湾(TTW)

※注1  
HACは、日本航空・ジェイエアとの「運送の共同引受」により「JAL便名」で運航  
※注2  
運休中